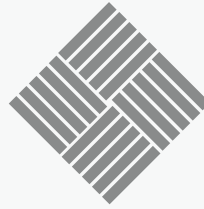


# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

6

Number

1

2015年10月15日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

2015年 5月 9日(土)	10:30～16:00	第1回東京ワークショップ「組紐ディスクとプレート」	多田牧子
2015年 5月 15日(金)	10:00～16:00	第1回京都ワークショップ1「プレートでネックレス」	今井雅子
2015年 5月 16日(土)	10:00～16:30	第3回シンポジウム 総会・講演会・親睦会	総合研究棟 4F
2015年 5月 15～17日	10:00～17:00	第4回作品展	センターホール 2F
2015年 5月 17日(日)	10:00～16:00	第1回京都ワークショップ2「ネックレス」	不破信子
2015年 7月 11日(土)	10:30～16:00	第2回東京ワークショップ「金属で組む」	青木美紗江
2015年 8月 21日(金)	10:00～16:00	第2回京都ワークショップ「かわいい結びのネックレス」	昇苑くみひも
2015年 8月 22日(土)	9:00～12:00	第2回京都レクチャー「組紐の歴史・材料・用途など」	多田牧子
2015年 9月 12日(金)	10:30～16:00	第3回東京ワークショップ「アンデスの平紐・マフラー」	石井奈々

## 目次 Contents

2	組紐 - 伝統に研ぎ澄まされた美と技術	第3回シンポジウム報告
5	第3回組紐国際会議「Braids 2016」	
6	創作の組紐	多田牧子
10	組紐・組物学会関連行事予定	

## In this issue

Kumihimo - Well-honed arts by the tradition - The 3rd Symposium	2
The 3rd International Conference on Braids 2016	5
New techniques in Maru-dai braids M. Tada	6
Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society	10

## 組紐・組物学会ニュースレター

第6巻第1号 2015年10月15日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX : (075)724-7844 E-mail : inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

# 組紐 - 伝統に研ぎ澄まされた美と技術

## 第3回組紐・組物学会シンポジウム報告



### 1. はじめに

本学会の「第3回組紐・組物学会シンポジウム」が5月16日(土)に、京都工芸繊維大学(総合研究棟4階)で開催されました。延べ約90名の参加者と7人の発表者により、下記のプログラムで進行しました。(敬称略)

魚住忠司 「繊維強化複合材料として用いられている組紐」

上田隆久 「産業用の組紐」

Kontawat Chottikampon 「視線移動計測による組紐熟練者と初心者との比較」

青柳淑枝 「綾竹台による習作」

木村章子 「パリ・グランメゾン技術者養成の取組」

西 幾代 「下げ緒と柄巻」

溝淵繁猪 「日本古来の色」

懇親会：北山通り "La Pineta"

午前中の3件の講演は、産業および複合材料分野に関する一般講演で、午後の4件の一般講演は伝統・文化・歴史分野に関するものでした。

### 2. 一般公演(産業および複合材料分野)

魚住忠司氏は、繊維強化プラスチックの中で、特に組紐を用いた複合材料の特徴を、「繊維の連続性」、「繊維配向角度の自由度」、「ニア・ネット・シェイプ・プレフォーミング性」、「自動化技術」であると、中でも「ニア・ネット・シェイプ・プレフォーミング性」と「自動化技術」の

展開が近年著しいことを述べた。最近のヨーロッパの複合材料見本市 JEC2015 においても、組紐複合材料は出展製品の約3割を占めていると報告し、BMW車の部品やDJP社のヘリコプタ部品の例を示した。(図1)

上田隆久氏は、産業用の組紐機械の機構、用途を紹介し、バルブの漏れ止め部品、自動車部品、船舶係留用ロープなどの専用の組紐について紹介した。

京都工芸繊維大学大学院の Kontawat Chottikampon 氏は、組紐の熟練者と初心者の違いはどこにあるのか、という疑問に科学的な回答を得るための研究結果について報告した。丸台の組紐の制作過程における、組み手の視線の推移を記録できる装置を用い、制作中の熟練者と初心者の視点の変化を比較した。熟練者は組糸への張力の与え方が一定であるため、組成点に合わせた視点の変化が少ないが、初心者はおもりの扱いに不慣れのため、組糸の張力がバランスせず、その結果組成点を中心から移動したものと結論した。また、組成点の水平移動以外にも熟練者と初心者を区別できる基準として、組速度、出来映え等についても検討している。(図2)

### 3. 一般公演(伝統・文化・歴史分野)

青柳淑枝氏は「流線模様」と呼ばれる綾竹台の組紐の創作模様の製作法について報告した。職人の方に教えてもらった最初のパターンを発展させ、一つの基本パターンを



図1 BMWの自動車部品(左) DJP社の航空機部品(右)

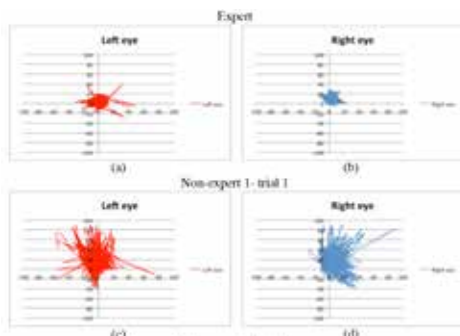


図2 熟練者(上)と初心者(下)の左目と右目の視点の変化



図3 流線模様のバリエーション

回転させて得られる派生パターンどうしの組み合わせから、次々と新しい帯締めめの柄を制作する系統的な方法を解説した。できあがった柄は、アンデスの織紐の柄に通じるものがある。新しい組紐を創作するための手法の一つを示すに留まらず、語られた創作の楽しさについても、共感するところは多いであろう。(図3)

木村章子氏は組紐も含めた、伝統工芸の技術を継承し、人材を育てるための仕組みに関して報告した。グランメゾンと呼ばれるパリの宝飾デザインの有力会社が共同で運営する人材育成プログラムは、年齢・国籍を問わずに生徒を受け入れ、無償で技術を教えるとのことである。そこに在籍した経験をもとに、ヨーロッパや国内の同様の人材育成プログラムについて述べ、当学会が今後果たすべき役割についても言及した。(図4)

西幾代氏は日本刀に使用される組紐として知られる、「下げ緒」と「柄巻」について報告した。身につける組紐としては帯締めよりも歴史が遙かに長く、しかも大きな需要のもとで発展してきた、組紐の代表である。下げ緒は刀や太刀を腰に固定するためのものであり、素材・意匠・組み方・結び方にも多くのバリエーションがある。柄巻は刀の握り部に巻く組紐で、下げ緒とは異なり紐の意匠性は低いものの、素材・組み方・巻き方には多くのバリエーションがある。そこに登場した組紐には、今日帯締めとして使われる組紐の組み方と意匠のほとんどがあると結論した。(図5)



図4 グランメゾンの研修施設



図5 下げ緒の使い方。(本多平八郎姿屏風絵)

溝淵繁猪氏は組紐の色について報告した。今日では、化学染料によりほぼどのような色の糸も利用可能となり、色は制作者の好みで選定できる。しかし明治以前では草木染めなど天然染料による色に限られており、また色には宗教や世界観に基づく意味があると述べた。色の意味を知ることにより、古代から伝わる組紐が、なぜこの色なのかを知る手がかりとなるのかも知れない。



図6 草木染めで染色した糸

#### 4. 懇親会

講演終了後の17:30から、北山通りのLa Pinetaで親睦会が開催された。恒例の濱田理事の乾杯の音頭に続いて、組紐検定合格者への認定証の授与、作品展の優秀作品への表彰状および副賞の授与が行われた。組紐検定では今回が初となる最難関の1級合格者3名に対し、大きな拍手が贈られた。



懇親会

## 第4回作品・製品展示会

2015年5月15日～17日 センターホール2階

第3回シンポジウム会場では第4回 組紐・組物学会作品・製品展示会が開催され、24人+1グループの作品と3社の製品が展示されました。出席理事が審査員となり、組紐・組物学会学会賞1名、同優秀賞2名、同奨励賞1名が16日に決定され、同日の懇親会の席上で表彰状の授与が行われました。学会賞は小嶋博子氏の「丸台でリバーシブルの紐を組む」でした。また、優秀賞は青柳淑枝氏の綾竹台作品と藤岡知子氏の円形唐組およびアンデスの組紐作品に、奨励賞は宮原万里子氏の中尊寺組と唐組作品与えられました。



組紐・組物学会学会賞  
小嶋博子氏



優秀賞  
青柳淑枝氏



優秀賞  
藤岡知子氏



奨励賞  
宮原万里子氏



組紐・組物学会賞



優秀賞



優秀賞



奨励賞



展示作品講評

# 第3回組紐国際会議「Braids 2016」



シアトル市街から見たレーニア山 (標高 4400m)

第3回組紐国際会議 Braids 2016 まであと9ヶ月になりました。会期とプログラムには変更があるのでご注意ください。

■会期：2016年7月24日～7月30日 約1週間前倒しになりました。現地受付は23日(日)15時から。

■場所：The University of Puget Sound, Tacoma, WA, USA 空港からシャトルバスで45分程度

■参加費：\$350 5日間の講演・ワークショップ参加・ツアー・図録・昼食・お茶・バス代を含む。ワークショップ

ブ材料費は別途先生に支払います。参加費等の支払いはカードのため代表が立替える予定です。

■宿泊：\$475 学生寮宿泊費6日間(朝食と夕食付で晚餐会\$28は別途)ベッド付き個室ですが、トイレ・お風呂は共用。追加宿泊は1日\$55(食事なし)。

■申込み：2015年11月15日より受付。参加希望者は、受講希望のワークショップ記号も忘れずに、多田牧子理事までご連絡下さい。組台等はレンタル可能です。詳細は学会ホームページもご覧下さい。

	7月25日(月)	7月26日(火)	(水)	7月28日(木)	7月29日(金)
講演	George Washington sash: Carol James	Kumihimo composite materials: Tadashi Uozumi		My never ending story with Peruvian braids: Rodrick Owen	Early bobbin lace: Kim Davis
2日間ワークショップ	W1 Weaving patterned bands using a double slotted heddle: Susan Foulkes		タコマ・シアトル博物館ツアー 8:30～10:00	W20 Making hairwork: Anna Sparr	
	W2 Rediscovering ancient tablet weaving techniques: Linda Malan			W21 South American warp and weft patterns -- double weave and weft inlay: Laverne Waddington	
	W3 Karakumi: Makiko Tada			W22 Lessons from the past: Kris Leet	
	W4 Inside out and loop the loop: Rosalie Nelson			W23 Explaining sprang: Carol James	
	W5 Ply-split in 3D: Julie Hedges			W24 Braid reconstruction basics: Michael Hattori	
	W6 Peruvian Headband braids: Rodrick Owen			W25 Variations of zig zag braid for jewelry: Leigh Morris	
	W7 Bobbin lace in wire: Kim Davis			W26 Playing with patterns: Ingrid Crickmore	
	W8 Cylindrical braids: Dominic Taylor				
1日ワークショップ	W9 Weaving on the bow loom: Marilyn Romatka	W10 Egyptian diamonds: John Mullarkey		W27 Torchon lace making with one stroke sketched geometric pattern: Junko Samejima	W28 Bands with hands: Alison Irwin
	W11 Double card double turn diamonds: John Mullarkey	W12 Ply-split letters in TLOI: Linda Hendrickson		W29 Start/stop: Jacqui Carey	W30 Sazigyo: sacred images and long lines of finely shaped lettering: Linda Hendrickson
	W13 Infinite possibilities of Maru Dai braids: Yuko Yoshida	W14 From ply-split braided tube to kumihimo braid and back: Barbara Walker		W31 Doubleweave pick up: Alison Irwin	W32 Sanada-himo: traditional Japanese woven band: Tamaki Takagi
	W15 Color block beaded kumihimo: Lynn Caldwell	W16 Hidden channel braid: Karen DeSouza		W33 Put it on the wall-- Make a mosaic with your braids: Lyn Christiansen	W34 Good luck with crown sennits: Carol Wang
	W17 Multi-diamond karakumi: Michael Hattori	W18 Just one: Jacqui Carey		W35 Modern macrame' variations: Carol Wang	W36 Hira Kara bracelet: Adrienne Gaskell
	W19 Embelished Oimatsu: Adrienne Gaskell			W37 Leno braids: Makiko Tada	
夜	展示即売	講演：アンナ・スバル	講演	展示即売	晚餐会

# 創作の組紐

New techniques in Maru-dai braids

多田牧子 Makiko Tada



## 1. はじめに

組紐は、三つ組や四つ組で始まったのですが、長い時をかけていろいろな組み方が考案され、発展してきました。そしてこれからも更に新しい創作の組紐ができると考えられます。そこで、これまでにワークショップやレクチャーで取り上げたり、またシンポジウムなどで発表された新しい組紐の創作方法について列挙しました。創作のための手法として、次の9つがまず考えられます。

### (1) 基本的な糸の移動方法の組み合わせ

例：丸四つ組を45度ずらして組む「くさりつなぎ」

例：江戸八つ組1～3段を45度ずらして組む「老松」、「江戸八つ合わせ」

### (2) 同じ組み方を横に二つ並べたもの

例：笹波組を横に2個並べて組む「双び笹波組」

例：唐組を横に2個並べて組む「双び唐組」

### (3) 違う組み方の組み合わせ

例：江戸八つ組と丸源氏組「大和源氏組」

例：内記組と丸四つ組「角内記組」

### (4) 平紐の場合、左右の組み方を変える

例：安田組と笹波組を横に並べて組み、その入れ替えをするなど。

### (5) 玉数を変える（アンバランスに）

例：金剛組の向かい合わせの位置の玉数を同数にしないで、1個と3個などに変えるなど。

### (6) 糸束の太さを変える

例：江戸八つ組の2玉だけを極端に太く（または極端に細く）するなど。

### (7) 移動の回数・段数を変える

例：老松の段数を変える、内記組の右回りか左回りを、2回組み方向を変えるなど。

### (8) 交差を組み入れる

例：左右別の色を使った時に左右の糸を入れ替えるなど

### (9) 同じ組み方で中（芯）と外側を組んだもの

例：江戸八つ組（芯）と江戸八つ組（外側）「2色切替江戸八つ」

例：八つ金剛組（芯）と八つ金剛組（外側）「2色切替八つ金剛」

ここにあげた方法の他にもいろいろとあると思います。新しい組み方を考案された方はワークショップなどで是非ご発表下さい。

2. 創作の組紐の例 2色切替江戸八つ（芯入り江戸八つ組）

創作のための手法の最後にある「同じ組み方で中（芯）と外側を組んだもの」の例として挙げた「2色切替江戸八つ」を説明します。これは2014・2015年度のワークショップやレクチャーでご紹介した創作の組紐で、2色で組み、それぞれ片方の色が見えたり隠れたりする切り替え方式の組み方です。ここでは江戸八つ組の芯を江戸八つ組でカバーしました。図1

次ページ以降の(1)～(3)の組み合わせで、2色にくっきり色を切り替えることができます。

組紐ディスクで組む場合は、八つ金剛の方が簡単に組めます。切り替えはくっきり2色にすることもできますし、また次ページ以降にご紹介する丸台で組む丸唐組や2色両方を使った江戸八つ合わせや、内記2段返しなどを間に入れて個性的な紐を作ることができます。他にも写真では網目江戸八つ、江戸八つ金剛などをご紹介します。



(1) 芯部分の江戸八つ組

まず、芯になる江戸八つを約1cm 組みます (4段)。一度に長く組むより、1cm くらいずつ組み進める方が仕上がりがきれいです。作りたい長さになるまで、(1)と(2)を繰り返してください。以下の場合●が芯に、●が外側をカバーする糸になります。図2

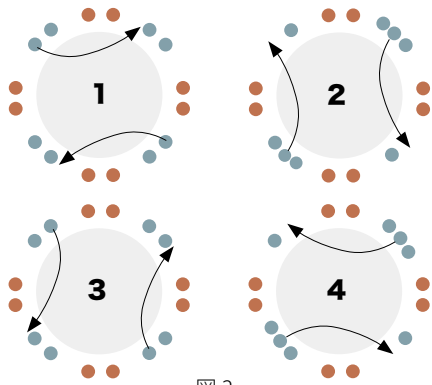


図2

(3) 芯部分と外入れ替え方

(2)で外側だった糸(●)が芯になります。●で以下のように江戸八つで芯部分を約1cm 組み、その後、●で外側をカバーします。外側のカバーの方法は、●の糸を用い(2)の要領で行います。所望の長さになるまで繰り返します。図4

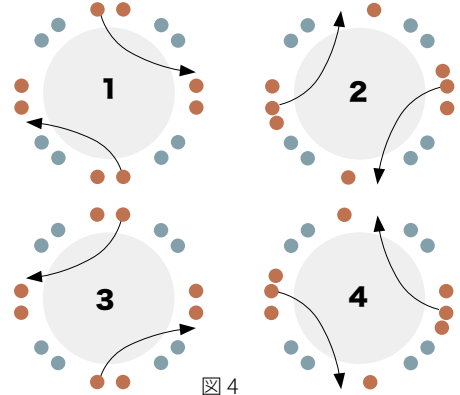


図4

(2) 外側の江戸八つを組み方

芯の江戸八つを包み込むまで組みます。もっと長くしたいときはもう一度(1)に戻り、(2)でカバーします。図3

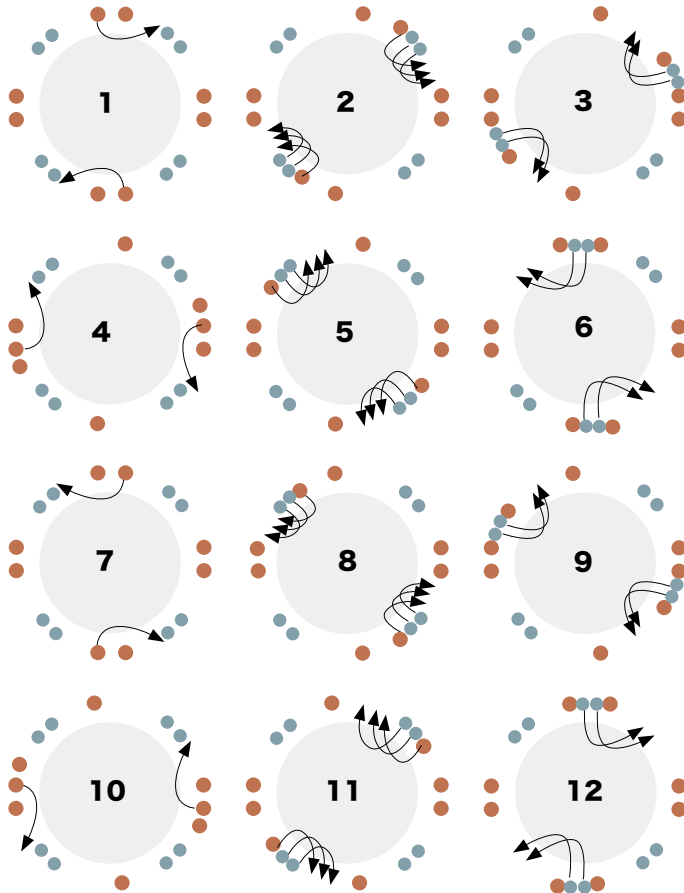


図3



3. 創作の組紐の例 江戸八つ合わせ

3-1 うねり

最初にあげた「基本的な糸の移動方法の組み合わせ」の例となる江戸八つ合わせです。縦横位置の8玉と斜め位置の8玉が両方とも右回りに始まります。図5

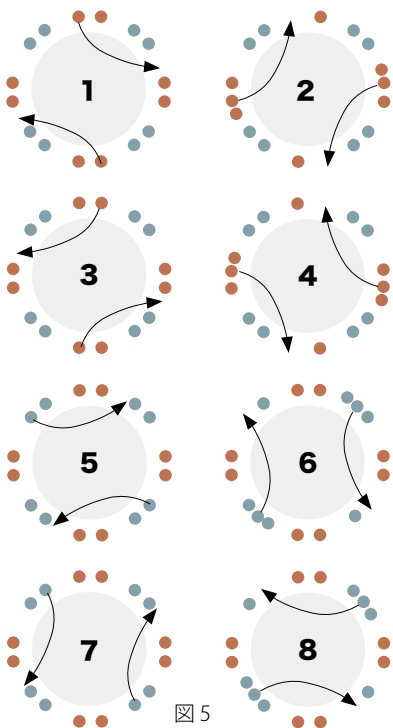


図5

3-2. 縦縞

うねりと同じ「基本的な糸の移動方法の組み合わせ」の江戸八つ合わせです。縦横位置の8玉は右回りに組み始め、斜め位置の8玉は左回りに始めます。図6

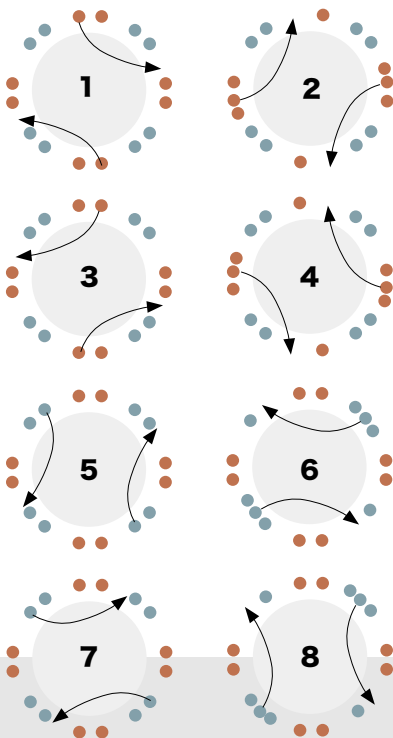


図6

4. 創作の組紐の例 内記2段返し

「移動の回数・段数を変える」の例であげた「内記組の右回りか左回りを2回組み方向を変える」方法です。この場合は2段で変えていますが、何段でも好みの段数で変えることができます。図7

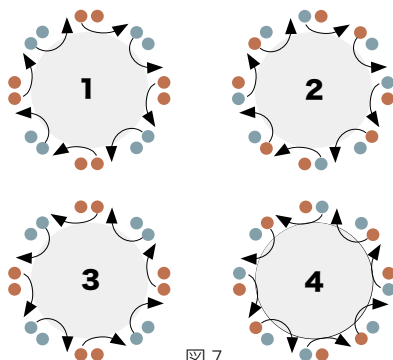


図7

(付録) 丸唐組

丸唐組は、通常角台で組まれますが、ここでは丸台で組む方法をご紹介します。切替の途中で組み込むのに最適な組み方です。図8

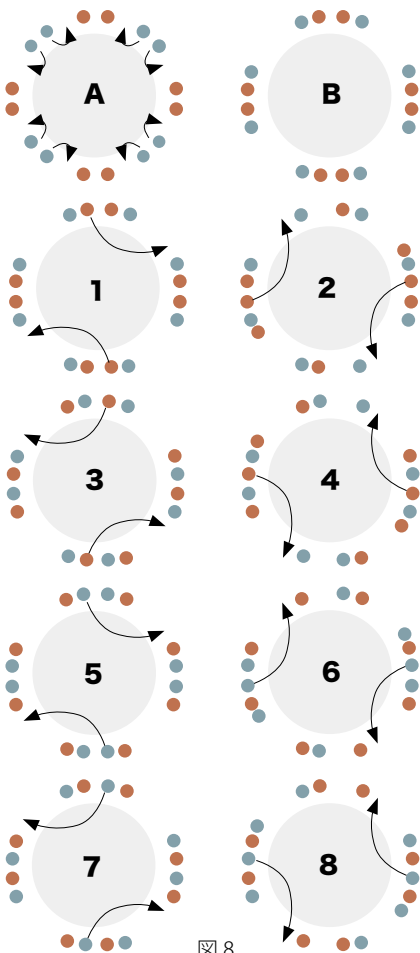


図8

## 組紐・組物学会業績賞

### ■趣旨

当学会の表彰は、これまで学会員の作品に対して行われてきました。これは作品の価値を客観的に評価して優秀な作品の範を示すこと、また学会員の制作へのモチベーションを高めることに寄与してきました。しかしながら、学会外に存在する多くの組紐関係者に対する影響はあまり大きくなかったものと思われま

す。組紐・組物学会業績賞は、学会の内外を問わず、組紐に関する作品・論文・研究・製品・製造システム・技能継承システムに等に関して画期的な貢献をした個人・法人を対象に、当学会がその意義を客観的に評価・表彰することにより、広く社会全体に当学会のプレゼンスを示すことを目的とします。

### ■第1回受賞者および業績

(1) 氏名：木下雅子氏（米国マサチューセッツ州アマースト在住）

(2) 業績：ループ操作法による古代の組紐の復元

(3) 出版物

・木下雅子「日本組紐古技法の研究」(1994). 京都書院  
・木下雅子「正倉院所蔵の組紐の組成技法について」(2009). 正倉院紀要 (31), 1-36.

・Kinoshita, Masako, "Braids on Early Japanese Banners" (1996). Textile Society of America Symposium Proceedings. Paper 844.

### ■表彰理由

今日伝統の組紐は、組紐教室のお稽古事においても職人の仕事においても、組台を用いて制作されるのが普通である。しかし、歴史的な文献の中で組台が登場するのは、唐組台を除けば15世紀末の足打ち台が最古であり、今日用いられる組台のほとんどが史実として確認できるのは江戸時代以降である。

一方、複雑な構造を有する組紐として現在に残されている西大寺組、中尊寺組、四天王寺組、春日大社太刀の緒、両面亀甲組などの名品は、平安から鎌倉時代にかけて制作されている。これらの組紐がどのような構造を有し、どのような手段で製作されたかはこれまで解明されていなかった。

このため、上記の名品の中でも最も構造の複雑な両面亀甲組の復元は、江戸時代以降の組紐研究家の挑戦の対象となった。江戸時代後期の平安重（御嶽神社奉納）と昭和の多田牧子（速玉大社奉納）は高台を用い、昭和の道明グループは直径の大きな丸台を用いて両面亀甲組の復元を行っている。



木下雅子氏

しかし、後代の技術を用いて古代の組紐を復元できたとしても、古代の組紐が何らかの組台で制作されたことを証明するものではない。

木下雅子氏は、ループ操作による組紐制作技術とその歴史を広範囲に調査すると共に、正倉院所蔵の奈良時代以前の組紐から上記の鎌倉時代までの組紐のほとんどをループ操作によって復元するに至った。またこのような古代から中世に至る組紐が、その構造から見て、ループ操作で制作されたと考える方が合理的であることも示している。すなわち、組台の使用以前の組紐の制作が手作業だけで制作されていたことを初めて科学的に示したものと評価できる。

以上の通り、木下雅子氏の研究および復元作業は、我国の組紐研究史の中でも特筆すべき業績であり、組紐・組物学会業績賞に値する。

## 新しい組紐の本



組紐検定1-5級を対象にした標準テキストで、組紐検定を受検しない方でも、組紐の基礎について詳しく学べる教本です。初版（緑表紙）を改訂し、唐組や綾竹台の説明が追加され、丸台の配色図がカラーになりました。

■書名：組紐と組物

■監修：組紐・組物学会

■体裁：B5版、60頁、フルカラー

■定価：2000円（税別）

■発行：2015年7月25日

■ISBN：9784925252317



高台と唐組台の組紐の配色の本が発刊されました。高台42種、唐組台10種の組み方について、それぞれ3～5種の配色実例が美しいカラー写真で収録されています。本書の入手は著者までお問合せ下さい。

■書名：高台と唐組台の組紐 作品実例集

■著者：小嶋博子・岡本睦子

■体裁：B5版、60頁、フルカラー

■定価：2000円（税別）

■発行：2015年6月20日

■ISBN：9784925252317

## 第6回組物検定 京都

第6回の組物検定試験は2015年12月12～13日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1, 2, 3, 4, 5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。クテ打：「秘伝系組」

「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。

クテ打：「秘伝系組」「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法（基礎技法）

なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

綾竹台作品2本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

高台1枚物作品2本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。

なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺(学会ロゴ入り)の制作などを学会が支援します。

■合否判定：

昨年度は1・2・3・4級で、各級とも筆記と実技の試験が行われ、10名の方が受験しました。

筆記試験は獲得点数により判定します。昨年度の合格ラインは4級が60点、3級が65点、2級が70点、1級は80点でした。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さに組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込み：

受験を希望する方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は7560円(絹糸の材料費を含む)です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院伝統みらい教育研究センター内  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844、E-mail: inoda@kit.ac.jp

■匠検定

今年度から「匠検定」が設けられました。筆記試験のない実技のみの試験です。実技試験としては、1級より難しく、高台2枚物の技能を検定します。



## ワークショップ 京都 2015-2016

- 第3回ワークショップ (国際組紐ワークショップ)  
10月27-30日「ビーズ組紐」エイドリアン・ガスケル
- 第4回ワークショップ  
12月11日(金) ワークショップ「検定直前講座」  
高台：廣澤徳三郎、丸台：西幾代、丸山文乃  
12日 組紐・組物検定(多目的室)「実技試験」  
13日 9:30～12:00 検定直前講座  
13:00～15:00 組紐・組物検定「筆記試験」
- 第5回ワークショップ&レクチャー (2016年)  
2月12日(金) ワークショップ「おもしろい組紐」  
尾崎嘉代、岡本睦子  
2月13日(土) レクチャー「新しい組紐」 多田牧子

## ワークショップ 東京 2015-2016

- 第4回ワークショップ  
11月7日(土) 10:30～16:00「ビーズ組紐」 エイドリアン・ガスケル
- 第5回ワークショップ (2016年)  
1月9日(土) 10:30～16:00「ボードで組む高台の組紐・マフラー」 清澤澄江
- 第6回ワークショップ (2016年)  
3月12日(土) 10:30～16:00「クテ打・唐組」  
亀井三枝子  
ワークショップの予定は変更されることがありますので、学会のホームページで最新情報をご確認ください。



組紐・組物学会  
The Kumihimo Society

### 役員

- 会長  
小嶋博子 : 組紐研究者
- 副会長  
仲井朝美 : 岐阜大学工学部
- 理事  
荒川光久 : 全国くみひも教材センター  
上田隆久 : 日本ピラー (株)  
魚住忠司 : 村田機械 (株)  
大谷章夫 : 岐阜大学工学部  
北村雅之 : 北陸ファイバーグラス (株)  
倉谷泰成 : (株)カド コーポレーション  
多田牧子 : 組紐研究者  
寺本 靖 : (有)寺本文化財工芸社  
西本博之 : 武田薬品工業 (株)  
濱田泰以 : 京都工芸繊維大学  
濱中知子 : ハマナカ (株)  
廣澤浩一 : 三重県組紐協同組合顧問  
圓井 良 : 圓井繊維機械 (株)  
松梨久仁子 : 日本女子大学  
渡辺一生 : 渡敬 (株)

### 事務局

猪田宮子 : 京都工芸繊維大学

## 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院  
伝統みらい教育研究センター内  
〒606-8585  
京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
Tel/Fax: (075)724-7844  
E-mail: inoda@kit.ac.jp  
<http://www.kumihimo-society.org>  
ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらをお願いします。

